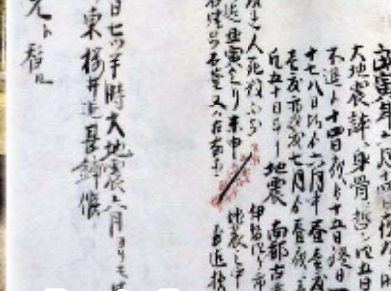
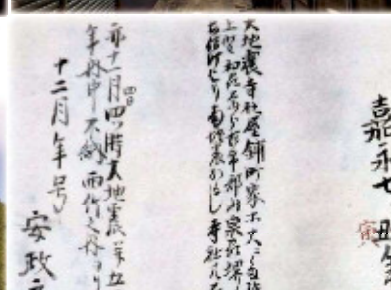
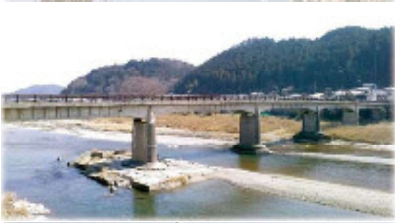
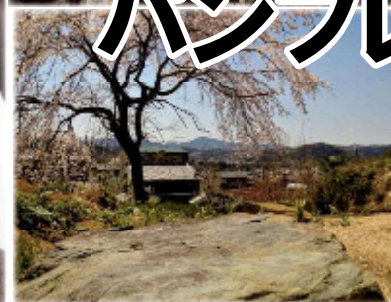


2018年度

おおよど遺産  
パンフレット



奈良県大淀町

# 2018年度おおよど遺産マップ



No.	名称	No.	名称	No.	名称
40	筆捨岩	47	観音寺	54	越部古墳
41	今木権現堂と安養寺	48	巨樹と桜の並木道	55	世尊寺太子堂とおたいっさん
42	保久良古墳と女帝の歌碑	49	石塚遺跡	56	前田家文書
43	大峯索道の遺産	50	光明寺	57	西増・増口の地藏盆
44	矢走城跡	51	下市口の風景	58	比曾石
45	安政の大地震の記録	52	三つの渡しと近代橋	59	柿の葉ずしを作ろう
46	畑屋と北野の道標	53	ケヤキと水取り神事	60	龍門騒動の記憶

## 2018年度おおよど遺産リスト

No.	名称	分類	地域	選定年月日	備考
40	弘法大師も筆を投げたり 筆捨岩	自然	佐名伝	2019年3月31日	区長および自治会長推薦分
41	蔵王権現を守り伝える 今木権現堂と安養寺	名所	今木・中増	2019年3月31日	区長および自治会長推薦分
42	建皇子の物語 保久良古墳と女帝の歌碑	名所	今木	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
43	洞川から吉野口へ 大峯索道の遺産	近現代	今木・大岩	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
44	愛宕山から矢がはしる 矢走城跡	名所	矢走	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
45	後世に伝えたい 安政の大地震の記録	もの	矢走	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
46	壺阪寺へ続く道 畑屋と北野の道標	名所	畑屋・北野	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
47	美しすぎる観音さん 観音寺	名所	桧垣本	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
48	さくらが丘の風ひかる 巨樹と桜の並木道	景観	下淵	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
49	「一之行場」の大五輪塔 石塚遺跡	名所	下淵	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
50	蓮如、吉野で人生を詠う 光明寺	名所	下淵	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
51	時代をこえて 下市口の風景	近現代	下淵	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
52	舟から橋へ 三つの渡しと近代橋	景観	下淵・越部・北六田	2019年3月31日	区長および自治会長推薦分
53	吉野の水よ清らかに ケヤキと水取り神事	自然・民俗	土田	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
54	梨木仏と「岡堂」の伝承 越部古墳	名所	越部	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
55	太子信仰の遺産 世尊寺太子堂とおたいっさん	名所・民俗	比曾	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
56	蘭学のDNA 前田家文書	もの	西増	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
57	アイデア野菜でツクリモノ 西増・増口の地蔵盆	民俗	西増・増口	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
58	あかい石が支えた地域産業 比曾石	もの	大淀町内各地	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
59	ふるさとの智慧と味 柿の葉ずしを作ろう	わざ	大淀町内各地	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分
60	語り継がれる秘話 龍門騒動の記憶	もの	大淀町内各地	2019年3月31日	町地域遺産会議推薦分

① 分類	自然遺産	② 地域	大淀町大字佐名伝
③ 名称			
こうぼうだいし ふで な 弘法大師も筆を投げたり 筆捨岩			
④ 説明			
<p>佐名伝地区の吉野川ぞいには、累々と奇岩のつらなる風景がひろがっています。なかでも、川中にひときわ高くそびえる巨岩は「筆捨岩」と呼ばれています。その昔、弘法大師（あるいは絵師の巨勢金岡）がここを通りかかり、この景色を絵にしたいと思い、毎日写生にでかけましたが、日々その姿が変わるので絵を仕上げることができず、ついに筆を投げた（捨てた）と伝えられています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">筆捨岩</p>			
⑥ 連絡先	佐名伝区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字今木 <sup>いまき</sup> ・中増 <sup>なかまし</sup>
③ 名称			
<p style="text-align: center;">             ざおうごんげん まも つた <span style="margin-left: 100px;">いまきごんげんどう あんようじ</span>  <b>蔵王権現を守り伝える 今木権現堂と安養寺</b> </p>			
④ 説明			
<p>大淀町内には、修験道の本尊・蔵王権現をまつる二つの権現堂があります。一つは町の西端、今木地区にある今木権現堂。永禄12年（1569）に作られた、奈良県内でも珍しい石造の蔵王権現像（高さ約133cm）が、室町時代の石仏群とともに安置されています。もう一つは、町の東端にある中増地区の安養寺。境内の権現堂内に平安時代後期作の木造の蔵王権現像（高さ約35cm）が安置されています（いずれも町指定文化財）。地域の宝として大切に守り伝えられています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>中増安養寺・木造の蔵王権現（左）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>今木権現堂・石造の蔵王権現（右）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字今木 <sup>いまき</sup>
③ 名称			
<p style="text-align: center;">たけるのみこ ものがたり ほくらこふん じょてい かひ  <b>建皇子の物語 保久良古墳と女帝の歌碑</b></p>			
④ 説明			
<p>建皇子（～658 年）は天智天皇の皇子。生まれつき声が出せず、8歳で亡くなったと『日本書紀』は語ります。彼の殯塚（もがりづか：仮に安置した塚）と伝えるのが、今木地区の町指定史跡・保久良古墳（7世紀の横穴式石室墳）。建の死を悲しんだ祖母の女帝（齐明天皇）は、次の歌を後世に語り伝えよ、そして私が死んだらそのお墓へ建皇子を合わせ葬るように、と言いました。</p> <p>今城<sup>いまき</sup>なる 小丘<sup>おむれ</sup>が上に 雲だにも 著<sup>しる</sup>くし立たば 何か嘆かむ（書紀歌謡 116）</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>保久良古墳（左上）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>建皇子イラスト（右上） （絵：今木在住・岩崎庄隆さん）</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>今木泉徳寺境内にある女帝の歌碑（下）</p> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字今木・大岩 <sup>いまき おおいわ</sup>
③ 名称			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>どろがわ 洞川から</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>よしのぐち 吉野口へ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>おおみねさくどう 大峯索道の</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>いさん 遺産</p> </div> </div>			
④ 説明			
<p>今木・大岩地区の山中には、「大峯索道」の支柱を建てたコンクリートの基礎が残されています。大峯索道は、今から約100年前の大正7年（1918）ごろ、天川村洞川（どろがわ）にあった大峯鉱山から吉野口駅まで、鉱石などを運ぶためにつくられた総延長23.8kmの架線です。昭和初年頃には使われなくなったようですが、奥吉野の山村の産業化を物語る土木遺産として貴重です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  <p>山中に残る大峯索道の基礎</p> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>やばせ</sup> 矢走
③ 名称			
<p style="text-align: center;">             あたごやま                      や                      やばせじょうあと              愛宕山から矢がはしる      矢走城跡         </p>			
④ 説明			
<p>矢走地区の北方にある愛宕山（標高 275m）の一带は、室町時代（14～16 世紀）にさかのぼる山城で「矢走城跡」と呼ばれています。その北方の持尾（もちお）地区にも、室町時代の石塔などが数多くみつかっており、周辺にはこの城を守った人々が住まいしていたと考えられます。この城から疾風（はやて）のように飛んでくる矢のイメージが、地名の由来になったのでしょうか。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">矢走城跡のある愛宕山（左）とその頂上のようなす（右）</p>			
⑥ 連絡先	矢走区（区長）		



① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>やほせ</sup> 矢走
------	------	------	-------------------------

③ 名称	のちのよ つた 後世に伝えたい	あんせい だいじしん きろく 安政の大地震の記録
------	--------------------	-----------------------------

④ 説明

嘉永7年・安政元年（1854）6月と11月、同2年（1855）10月におこった「安政の大地震（伊賀上野地震、南海・東南海地震、江戸地震）」を知っていますか。矢走地区の松林寺には、この大地震のことを記した当時の住職のメモが残っています。各地の被害のようすが克明に記されていますが、さいわい矢走地区の被害は少なかったようです。住職も「かわら版（当時の新聞）」を読みながら、被災地の人々に思いを寄せつつ、後世にその記録を伝えんと筆を取ったのでしょう。

⑤ 写真

安政2年 (1855)

嘉永7年・安政元年 (1854)

【安政の大地震の記録】  
 1854年(嘉永7年)6月14日(辰)午前6時30分頃(伊賀上野地震)  
 1854年(嘉永7年)11月4日(辰)午後5時(南海・東南海地震)  
 1855年(安政2年)10月2日(辰)(江戸地震)

地震についてのメモが記された古文書（左）  
とその古文書の翻刻文（右）

⑥ 連絡先	大淀町教育委員会
-------	----------

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字畑屋・北野
③ 名称			
<p>つぼさかでら つづ みち はたや きたの みちしるべ 壺阪寺へ続く道 畑屋と北野の道標</p>			
④ 説明			
<p>畑屋地区には「つぼさか道」と刻まれた石の道標があります。ここから一山越えて、壺阪寺（高取町）へ続く峠道（畑屋越え）は、吉野と大和国中（大和盆地）をつなぐ街道でもありました。今からおよそ 250 年前の安永元年（1772）、伊勢の松坂から吉野へ旅をした国学者・本居宣長（1730-1801）も、その帰りにこの道を通り壺阪寺に詣で、飛鳥方面へと向かいました。長年、旅人たちを見守ってきた「つぼさか道」の道標は、北野地区東端の谷沿いの古道にも立っています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">「つぼさか道」の道標（左：畑屋 右：北野）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>ひがimoto</sup> 桧垣本
③ 名称			
<p style="text-align: center;">うつく <sup>かんのん</sup> 美しすぎる観音さん <sup>かんのんじ</sup> 観音寺</p>			
④ 説明			
<p>桧垣本地区にある観音寺（慈眼山普門院）には、高さ約 68cm の木造千手観音像がまつられています。唇に朱色の彩色がなされ、不思議な美しさをただよわせる室町時代の優品です。本堂に安置されている本尊・阿弥陀如来坐像も、量感のある室町時代の作風で観音寺の由緒を物語ります。応永 3 年（1394）創建と伝わる観音寺は、江戸時代初期に浄土宗へと変わっていますが、千手観音を本尊とする真言宗寺院として隆盛をほこった頃の記憶が、今でも受け継がれています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">千手観音像（観音寺）</p>			
⑥ 連絡先	観音寺		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町大字下 <sup>しもぶち</sup> 渕
③ 名称			
さくらが <sup>おか かせ</sup> 丘の風ひかる      きょじゅ さくら なみきみち 巨樹と桜の並木道			
④ 説明			
<p>下渕地区の高台にある県立大淀高校前の道。見上げるような巨樹の並木が続くこの一帯は、戦前より桜の植樹が多かったことから通称「桜ヶ丘」と呼ばれています。今でも各所にその名残の桜の木がみられ、道行く人々の目を楽しませています。この「桜ヶ丘」の地名は、縄文時代前期（約6,000年前）の竪穴式住居跡がみつかった大淀桜ヶ丘遺跡の遺跡名、そのうえに建つ町立大淀桜ヶ丘小学校の校名（1968年より）や校歌（さくらが丘の風ひかる♪…）にも使われています。</p>			
⑤ 写真			
 <p>大淀桜ヶ丘小学校のしだれ桜（左）と巨樹の並木道（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>しもぶち</sup> 下湊
③ 名称			
<p>いちぎょうば だいがりんとう いしづかいせき  「一の行場」の大五輪塔 石塚遺跡</p>			
④ 説明			
<p>吉野川が大きく蛇行する下湊地区の鈴ヶ森。この地に建つ行者堂は、修験道の開祖・役行者の石像をまつていますが、昭和13年（1938）頃までは、元車坂峠の頂上にある石塚遺跡の付近に建っていました。「大峯修験一の行場」と呼ばれたこの石塚から、車坂峠に集った修験者たちは、大峯の山々を伏し拝んだといいます。石塚付近でみつかった正和4年（1315）の銘を刻む五輪塔の地輪（縦約60cm）は、金剛・葛城山麓の石材（葛城石）を用いた、在銘のものでは吉野最古の五輪塔です。この地輪も行者堂の脇に移され、石塚の脇には同大の五輪塔が復元されています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>鈴ヶ森行者堂にある五輪塔の地輪（左）</p> <p>石塚遺跡と復元された五輪塔（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>しもぶち</sup> 下湊
③ 名称			
<p>れんにょ よしの じんせい うた こうみょう じ          蓮如、吉野で人生を詠う 光明寺</p>			
④ 説明			
<p>下湊地区の浄土真宗・光明寺は、文化 13 年（1817）再建の古風な本堂がシンボルです。ここには、浄土真宗 8 代の蓮如（1415－1499）の直筆の和歌が残されています。「仏にも 祖師にも 齢 同じくて 八十に満ちる 身さえ尊し」。明應 3 年（1494）、蓮如が吉野巡杖の折に立ち寄って記した、釈迦や祖師（親鸞）と同じ年まで生きたことを喜ぶ 80 歳の祝い歌です。光明寺には他にも、後継 9 代・実如からいただいたと記す永正 9 年（1512）の阿弥陀如来画像が残されています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="336 1133 707 1883" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="727 1133 1153 1883" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1209 1167 1305 1440" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">             阿弥陀如来画像（右）              蓮如直筆の和歌（左）         </div> </div>			
⑥ 連絡先	光明寺		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>しもぶち</sup> 下洩
------	-------	------	--------------------------

③ 名称			
------	--	--	--

とき 時代をこえて      しもいちぐち      ふうけい  
 下市口の風景

④ 説明			
------	--	--	--

この地にはじめて鉄道が通った大正元年（1912）以降、下洩地区の下市口駅は、山国・吉野の玄関口として栄えました。それ以来多くの人々が、駅の賑わいや鉄道の汽笛を聞き、商店街の風景、木材倉庫と吉野杉の香りを作品に残しました。戦後、吉野川を渡る千石橋の北詰にできた「下洩マーケット」。戦前から続く銭湯「旭湯」。岡本本家の酒蔵もまた、商店街の記憶に残る景観です。100年の時代をこえて受け継がれてきた下市口の風景に、近現代吉野の賑わいがゆかしく偲ばれます。

⑤ 写真			
------	--	--	--



下洩マーケット（右上）・旭湯（右下）  
 酒蔵のある風景（左）

⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		
-------	----------	--	--

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>しもぶち</sup> 下澗・ <sup>こしべ</sup> 越部・ <sup>きたむだ</sup> 北六田
------	------	------	--

③ 名称

ふね はし みつ わた きんだいきょう  
 舟から橋へ 三つの渡しと近代橋

④ 説明

大淀町内には、吉野川を渡る七つの鉄橋があります。現存最古の橋は、大正8年（1919）にできた木造橋の橋脚を転用し昭和11年（1936）に完成した北六田地区の美吉野橋。この美吉野橋と千石橋（下澗）、椿橋（越部）の地は、橋ができる前から、柳の渡し（北六田：町指定史跡）、桧の渡し（下澗）、椿の渡し（越部）と呼ばれ、「渡し舟」が往来する渡し場でもありました。川を渡る手段が変わっても、橋の名前や残された石灯籠、今に続く祭礼行事がその記憶を伝えています。

⑤ 写真



美吉野橋（左上）と柳の渡し祭りのようす（右上）  
 椿橋（左下）・千石橋（右下）

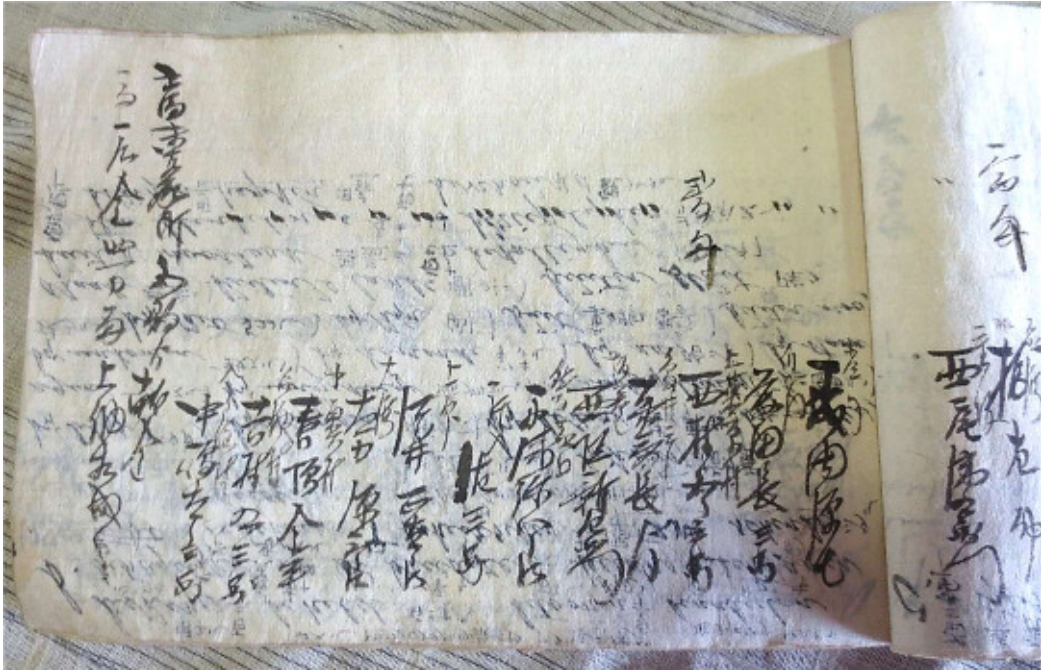
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会
-------	----------



① 分類	自然・民俗遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>つうた</sup> 土田
③ 名称			
よしの <sup>みず</sup> <sup>きよ</sup> 吉野の水よ清らかに <sup>みずと</sup> <sup>しんじ</sup> ケヤキと水取り神事			
④ 説明			
<p>吉野川を見下ろす土田地区の線路脇に、ケヤキの巨樹（町指定天然記念物）が枝を広げています。かつては、ケヤキのそばまで吉野川の淵がせまっていました。例年7月26日、畝傍山（橿原市）にある畝火山口神社の宮司がこの淵へ来て、神社の夏季大祭「でんそそ祭り」に用いる水を汲む神事（町指定無形民俗文化財）がおこなわれます。宝暦9年（1759）以来続くこの神事は、大和国中（大和盆地）の人々にとって、「吉野川の水」がもっていた歴史的な意義を今に伝えています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">枝を広げるケヤキの巨樹（左）</p> <p style="text-align: center;">吉野川に設けられた水取り場（右）</p>			
⑥ 連絡先	土田区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字越部 <small>こしべ</small>
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> <small>なしのきほとけ</small>      <small>おかどう</small>      <small>でんしょう</small>      <small>こしべこふん</small>  <b>梨木仏と「岡堂」の伝承 越部古墳</b> </p>			
④ 説明			
<p>越部地区の小字「堂ノ上（どのうえ）」と呼ばれる丘には、6世紀末頃の横穴式石室墳（越部1号墳）があります。平成9年（1997）の発掘調査で、石室のなかから「堂」という墨書きの平安時代（10世紀）の土器がみつかりました。平安時代初期（9世紀中頃）に書かれた説話集『日本霊異記』には、聖武天皇の時代（8世紀）、「梨の木」で彫られた阿弥陀・弥勒・観音の仏を「越部村の岡堂に安置した」と記します。「梨木仏」はこの古墳の近くにまつられていたようです。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="236 1151 788 1883">  </div> <div data-bbox="807 1151 1343 1677">  </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">             越部1号墳から南を遠望（左）              越部1号墳の石室（右）         </p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所・民俗遺産	② 地域	大淀町大字比曽 <sup>ひそ</sup>
③ 名称			
<p style="text-align: center;">たいし しんこう いさん      せそんじ たいしどう  <b>太子信仰の遺産      世尊寺太子堂とおたいっさん</b></p>			
④ 説明			
<p>上比曽地区にたたくむ寛延 4 年・宝暦元年（1751）創建の曹洞宗・世尊寺。それより以前、この地にあった比曽寺（現光寺）の伽藍と、荒れ果てていた境内を復興するため、聖徳太子信仰にもとづく寺の由緒を記した「現光寺縁起絵巻（町指定文化財）」が 17 世紀に作られ、享保 9 年（1724）頃には、太子信仰の拠点となる「太子堂（県指定文化財）」が建てられました。例年 4 月 29 日には「聖徳太子報恩大会式（おたいっさん）」がおこなわれ、地域がにぎわう行事となっています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 45%; font-size: small;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">世尊寺太子堂の本尊・聖徳太子十六歳の孝養像（右）              会式「おたいっさん」の「くまぎ」（左上）と太子堂（左下）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	上比曽区（区長）・世尊寺		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>にしまし</sup> 西増
③ 名称			
<p style="text-align: center;">らんがく ディーエヌエー まえだ けもんじょ 蘭学のDNA 前田家文書</p>			
④ 説明			
<p>天保9年(1838)、オランダ学(蘭学)者の緒方洪庵(1810-1909)が大坂に開いた「適塾」。「和州芳野郡西増邨」出身の「前田順蔵」は、文久元年(1861)から適塾に通っていました。</p> <p>西増地区の前田家は代々庄屋をつとめた家で、残されていた19世紀(幕末~明治初年)の古文書のなかに、オランダの医学用語を綴った紙を裏紙にして書かれた、慶應元年(1865)の「五條県吉野郡総代覚書」があります。吉野の地に受け継がれた「蘭学のDNA」を示す遺産です。</p>			
⑤ 写真			
			
古文書の裏紙に見えるオランダ語			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字 <sup>にしまし</sup> 西増・ <sup>ましぐち</sup> 増口
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> <sup>やさい</sup>                  アイデア野菜でツクリモノ <sup>にしまし</sup> 西増・<sup>ましぐち</sup> 増口の<sup>じそうぼん</sup>地蔵盆             </p>			
④ 説明			
<p>西増・増口地区では、毎年8月24日の夕刻から地区全体で「地蔵盆」がおこなわれます。西増地区では8箇所、増口地区では5箇所の地蔵堂が垣内（かいと）ごとに開扉され、地域の住民が集い、子どもたちが順番に地蔵堂にお参りして、お菓子などをもらって楽しめます。その折のお供え物として、垣内の人々が様々な野菜などを組み合わせてつくる「ツクリモノ」があります。その年ごとにアイデアと工夫にあふれたお供え物が登場し、地域の賑わいと笑顔を誘っています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  <p>地蔵盆のツクリモノ（西増地区）</p> </div>			
⑥ 連絡先	西増区（区長）・増口区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p>いし ささ ちいきさんぎょう ひ そいし  <b>あかい石が支えた地域産業 比曽石</b></p>			
④ 説明			
<p>吉野の産業を支えたのは、林業だけではなく、比曽地区周辺に石切り場が残る、あかみをおびた「石英安山岩（せきえいあんざんがん）」もその一つ。北六田地区に残る明暦2年（1656）の庚申塔をはじめ、墓石や石仏、石灯笼、階段、礎石など、多様な石造物の材料として使われ、江戸時代から明治時代にかけて吉野郡内を中心にひろく流通しました。この比曽石をとるために、多くの石工や運搬にかかわった人々が付近に住み、日夜、石割の音を響かせていたと想像されます。</p>			
⑤ 写真			
			
<p>比曽出口・地藏堂前の線路脇に立つ比曽石製の石造物</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	わざ遺産	② 地域	大淀町内各地
------	------	------	--------

③ 名称

ふるさとの<sup>ち え あじ</sup>智恵と味 <sup>かき は</sup>柿の葉ずしを<sup>つく</sup>作ろう

④ 説明

海の幸（サバ）、山の幸（柿の葉）、里の幸（お米）がひとつにあわさってできる「柿の葉ずし」は吉野の伝統的な保存食です。今はお店で買うことが多くなりましたが、吉野川ぞいでは6月1日の川開き（アユ釣りの解禁）、夏まつりのごちそうとして、各地域・各家庭で柿の葉ずしを作ってふるまう風習がありました。大淀町では、柿の葉ずしを作り続けてきたおばあちゃんたちが、ふるさとの智恵と味、経験と思い出を、つぎの世代へ語り継ぐ事業にもとりこんでいます。

⑤ 写真



手作りの柿の葉ずし（左）と紙芝居「柿の葉ずし」のイラスト（右）

⑥ 連絡先	大淀町教育委員会
-------	----------

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p style="text-align: center;">かた つ ひ わ りゅうもんそうどう きおく 語り継がれる秘話 龍門騒動の記憶</p>			
④ 説明			
<p>今から約 200 年前、文政元年（1818）のこと。旗本・中坊氏の所領だった吉野郡 15 ヶ村のうち、矢治村をのぞく 14 ヶ村の百姓たちが重税に反抗して一揆を起し、龍門郷・平尾村の代官所を襲い、代官・浜島清が殺害されました。一揆に参加した百姓たちは厳しい罰を受けました。大淀町域にあった 5 ヶ村にも、処罰された人々の知られざる秘話が残されています。領主の中坊氏はこの後、住民に重税を課すことはなく、村々の長たちも領主に共感をもって歩み寄りました。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">比叢・世尊寺にまつられる中坊秀祐の彫像（左） 中坊氏の武運長久を刻む矢走地区の石灯籠（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		



# 2016・2017年度 おおよど遺産リスト



「2018年度おおよど遺産保存・活用支援事業」で保存修理された  
中増・安養寺の観経曼荼羅 (No.39・2017年度選定おおよど遺産)

2016・2017年度おおよど遺産リスト

No.	名称	分類	地域	選定年月日	備考
1	オカリヤをたてる 御霊神社の秋祭	民俗遺産	佐名伝	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
2	潮の香りと弥生人の記憶 佐名伝銅鐸	もの遺産	佐名伝	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
3	梨の花香る里山 大阿太高原	景観遺産	佐名伝・薬水	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
4	大正浪漫のタイムトンネル 薬水門	近現代遺産	薬水	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
5	薬水の由来 弘法井戸	名所遺産	薬水	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
6	おおみそかの送り火 牛と馬のトンド	民俗遺産	今木	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
7	天まであがれ 大岩のトンド	民俗遺産	大岩	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
8	アメタンモレの伝承 大日如来と大岩神社の神像	もの遺産	大岩	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
9	蓮のつぼみを抱えた大日如来	もの遺産	岩壺	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
10	ワッタイヨーで強くなれ 子ども相撲	民俗遺産	岩壺	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
11	村の庄屋の物語 迎居家の文化遺産	もの遺産	持尾	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
12	お正月の風物詩 カンジョウカケ	民俗遺産	畑屋	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
13	忠臣小金吾 伝説をものがたる石塔	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
14	能楽お囃子のふるさと 桧垣本八幡神社	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
15	張子の仏に願いを込めて 桧垣本釈迦堂	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
16	安佐寺ゆかりの仏たち 馬佐薬師堂	名所遺産	馬佐	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
17	吉野最大級 北六田の木造倉庫群	近現代遺産	北六田	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
18	ふるさとを見守る ムクノキの巨樹	自然遺産	比曾	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
19	子どもに恵まれますように 上比曾のいのこ	民俗遺産	比曾	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
20	椿井の杜の鎮守さま 水分神社	名所遺産	増口	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分

2016・2017年度おおよど遺産リスト

No.	名 称	分 類	地 域	選定年月日	備 考
21	ほとけの心とやさしい言葉 花岡大学の童話作品	もの遺産	佐名伝	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
22	氏神さんに祈る日々 戦勝祈願の絵馬	近現代遺産	薬水	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
23	こもればはふるさとの灯 車坂古道	名所遺産	今木・下泷	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
24	近代化を支えた和漢薬 大岩の薬業遺産	近現代遺産	大岩	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
25	古風な宮座の神事 天髪王神社のトヤワタシ	民俗遺産	矢走	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
26	オンリーワン!の狛犬 天髪神社	名所遺産	持尾	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
27	鐘の音色は姫の声 正覚寺の梵鐘	もの遺産	芦原	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
28	500年続く龍神さまの記憶 畑屋の湯釜	もの遺産	畑屋	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
29	うったきさんへ牛つれて 牛滝まつり	民俗遺産	馬佐	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
30	みこしに乗って夏祭り 水神祭	民俗遺産	下泷	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
31	弥生人が入っています 常門遺跡の壺	もの遺産	越部	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
32	のぞいてびっくり 槇ヶ峯の古墳群	名所遺産	新野	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
33	北六田創村物語 毘沙門講の古文書	もの遺産	北六田	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
34	吉野の原風景がみえる 岸田日出男の遺したもの	近現代遺産	北六田	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
35	伊勢と和歌山をつなぐ道 伊勢南街道のまちなみ	景観遺産	増口	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
36	あの山のむこうに伊勢がある 高見地蔵	名所遺産	西増	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
37	お伊勢さんのおかげです おかげ灯籠	民俗遺産	中増	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
38	目で見ると阿弥陀さんの世界 観経曼荼羅	もの遺産	中増	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
39	受け継がれる伝統の技と志 茶の里・増	わざ・景観遺産	中増・増口	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分

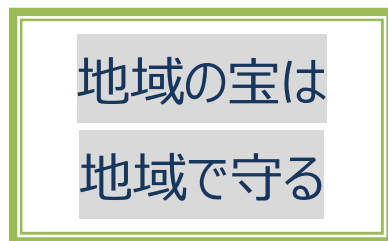
## このパンフレットを手にとっていたいただいた皆様へ

大淀町では、2016年度に策定した、「大淀町地域遺産保存・活用制度」実施要綱にもとづき、町内各地域に残された様々な遺産（地域遺産）のなかから、とりわけ魅力あるストーリー（物語）をもつものを、有形・無形を問わず「おおよど遺産」として選定し、地域住民と行政が協働でおこなう保存・活用を目指しています。

このパンフレットでは、大淀町が町内各区・自治会の推薦をうけ、大淀町地域遺産会議での審議等を経て、2018年度に選定した21件の「おおよど遺産」を紹介しています。

「おおよど遺産」は、大淀町内各地の歴史・文化を特徴づけるとともに、地域住民の心の拠りどころとして、また、大淀町を訪れる人々にも、地域に愛着を感じていただくきっかけとして、そして、地域文化を持続させ、次世代へとつなぐ記憶のバトンとして活かされることが大いに期待されるものです。

これからも、大淀町が推進する、「おおよど遺産」を活かした地域文化の保存・継承と活性化事業に、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。



<大淀町地域遺産保存・活用事業>

編集・製作 大淀町・大淀町教育委員会

2019年3月

〒638-0812 奈良県吉野郡大淀町桧垣本 2090 番地

大淀町地域遺産会議事務局（大淀町教育委員会）

電話：0747-54-2110 ファックス：0747-54-2112